



信州大学 経済学部同窓会報

第 12 号

発行 者 信州大学経済学部同窓会
同窓会事務局 〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
信州大学経済学部に
TEL・FAX 0263-37-2309

平成23年11月25日発行

E-mail : k-doso@shinshu-u.ac.jp
URL : http://www.econ.shinshu-u.ac.jp/index.html

第十二号の紙面より

- 会長あいさつ 矢口晋司
- 特集 理事会の諸活動
- ・現役学生との意見交換会 藤原絹子
- ・奥穂高登山 轟 寛逸
- 幹事会・理事会・総会報告
- 連載 ゼミ「今」
- 一後輩達のゼミ紹介— 長瀬ゼミ 関ゼミ

- 会員による業界展望 (「現代の産業・社会事情」担当講師)
- 山岸寿美 (1987年入学)
- 市川京之助 (1992年入学)
- 矢野 剛 (1999年入学)
- 会員のたより
- 横山直己 (1966年入学)
- 野口明美 (1978年入学)
- 奥原 明 (1991年入学)

- 八ヶ岳自然と森の学校だより 高木保夫 (1977年入学)
- 編集後記

ご案内

- ・平成24年度総会案内
- ・東京同窓会案内
- ・広報誌「信大NOW」のご案内
- ・日本学生支援機構からのお知らせ

会長あいさつ

同窓会長 矢口 晋司
(1978年入学)

信州大学経済学部同窓会員の皆様におかれましては、各分野で広くご活躍のこととお喜び申し上げます。平素より、母校の発展ならびに同窓会活動に対し何かと関心を頂きありがとうございます。

最初に、本年三月十一日に発生した東日本大震災、翌十二日に発生した長野県北部地震、六月三十日に発生した松本地震、そして今般の台風十二号の記録的な豪雨により被災されました皆様方に心よりお見舞い申し上げます。同窓会といたしまして、学部に対して行っております学部支援金(教育支援)を通じ、被災地出身の学生への支援(緊急貸付)という形で微力ながらも支援活動を展開しております。また、同窓会役員もそれぞれの立場で被災地支援活動にあたっております。依然として厳しい状況下ではあります。一日も早い復興をお祈り申し上げます。と思います。

さて、七月十六日に開催いたしました同窓会総会には、大勢の会員の皆様方にお集まり頂き、また熱心なご討議を頂き、誠にありがとうございます。総会の席上でもご説明させて頂きましたが、今年度の同窓会活動を展開するにあたり会員の皆様方にご理解とご協力をお願いしたいことが三つございます。まず一つですが、平成二十四年三月十九日に設立三十周年を迎える、我が経済学部同窓会の記念行事についてです。総会において、設立三十周年記念行事は平成二十四年七月十四日に開催すること、記念DVDを制作すること、記念祝賀会を会費制で行うこと、記念行事の予算は上限四〇〇万

円とすること、実行委員会を設置し運営管理を行うこと等を決定頂きました。今後、理事会、幹事会、実行委員会の中で検討を重ね、有意義な記念行事の実施に向け努力してまいります。会員の皆様方の積極的なご参加をお願いするとともに、ご理解とご協力もあわせてお願いいたします。

次に二つ目ですが、同窓会活動活性化への取組についてです。その一環として、前述の記念行事に対する検討はもとより、今後の同窓会活動の在り方、経済学部との連携、大学に対する協力体制の持ち方等の意見をお出し頂くべく、今年度より幹事会を定期的に開催させて頂いております。幹事会での意見を基に、集まれる範囲で会合を持ち、趣味や健康作りを通じた会員間の親睦を深めることも活動活性化に繋がるとの考えから、今回の会報にて紹介してある現役学生との意見交換会や奥穂高登山などが企画実施されました。これからも幹事の皆様方のご意見を集約させて頂き、それを基に理事会において検討を深め、同窓会活動の活性化へとつなげていければと考えております。

さて三つ目ですが、再三再四お願い申し上げます。終身会費納入に関しましてのご報告並びにご確認についてです。平成十九年十一月の総会におきまして、終身会費一万円徴収を決定頂き、文書にて、会員の皆様方に終身会費一万円の納入をご依頼申し上げたところ、趣旨をご理解頂き、八月末現在で一、〇八七名の皆様方よりお振込みを頂きました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。この場をお借りして深く御礼申し上げます。説明不足が原因で、まだ多くの会員の皆様方に終身会費徴収の趣旨をご理解頂くことができず、お振込み手続きを完了し

て頂けない状況となっております。皆様方もご承知の通り、国立大学独立行政法人化以降、大学を取り巻く情勢は非常に厳しい状況となっており、経済学部も削減された研究費の中で成果を期待されるという極めて厳しい環境となっております。こうした状況下で毎年同窓会から支出しております学部支援金は、学部活動の充実に微力ながら貢献しております。しかしながら、今後の学部における學術研究並びに地域連携等に対し、資金面も含め支援体制を検討していく必要性を強く感じているものの、具体的な支援検討を進められない状況となっております。同窓会員全員の皆様方の深いご理解を頂く中でこの難局を打破していきたいと考えておりますことから、この場をお借りし、終身会費の納入を再度お願い申し上げます。

平成24年度総会／ 経済学部同窓会設立30周年記念行事ご案内

日時 平成24年7月14日(土)
場所 信州大学経済学部 新棟1階 第一講義室
同窓会総会 午後1時～
同窓会設立30周年記念行事 午後2時～
・記念式典
・祝賀会



特集 理事会の諸活動

現役学生との 意見交換会

同窓会理事 藤原 絹子
(1977年入学)

六月十八日、理事会では初めての試みとして現役学生との意見交換会を開催しました。ゆくゆくは参加する先輩側を、理事会メンバー以外の同窓生(卒業生)にも拡げていきたいと思っ

ていますが、理事会メンバーだけをみて、卒業後の仕事の分野は多岐に渡っており、かねがねこの豊かな先輩資源を活用しない手はないと思ってきました。理事会メンバーも、自分たちの経験を現役学生にフィードバックしたい、同窓会活動に役立てたいという熱望を持っていますので、まずはこれを形にしてみようということで意見交換会が実施されました。

開催の時期が、四年生は就職活動(含公務員試験)中だったり、二、三年生は公務員講座受講期間だったりした上、開催案内の広報期間が短かったにも関わらず、三名(四年生二名、三年生一名)の学生さんが参加してくれました。

自由で活発な意見交換

四年生の方からは、目下活動中の就職面接について、「面接する側の視点などについて質問が出され、これに対して、面接官をやったことのある県庁職員や会社員の先輩(理事)から、色々とお話を聞きました。

もう一人の四年生の方からは、自分がこれから取り組もうとしている卒論のテーマなどについて説明があり、そ

れが、これからの社会のあり方、生き方に関するような興味深いものだったので、先輩からも質問が相次ぎ、活発な意見交換がなされました。

三年生の方からは、卒業後の進路について希望が語られ、それが地域活性化や観光の発展に関わることだったので、県庁職員としてこれまでその分野に関わってきた先輩などから大いに体験談等が披露されました。

学生側からの貴重な意見

学生さんの一人からは、「厳しい就職活動で役立つのは、先輩との密接な関係。それをフェアなやり方じゃないという仲間もいるけれど、詳細な企業情報が得られるし、企業側も人物の判断に信頼が置ければ助かる。その現実を考えたら、こういって先輩との意見交換、情報交換の場は非常に有効だと思う」という意見が出され、私たちの考えているところと一致して、嬉しく思いました。

また、是非、長く継続して意見交換会を開催して欲しいとの希望も出されました。定例化していくことで、どんな会なのか広まら、参加者も増えていくという事です。

今後活かす意見

これを定期的なものにしていき、できるだけ多くの学生が参加できるように、開催時期を考慮してほしいとの意見が出されました。例えば、広報期間を長く取った上で、一月の新年明け早々の開催など。

また、学生の側からも、事前に、こんなことが聞きたいなどの要望も出せるといいという意見も出されました。まとめと感想

まず一回実施してみることで見えてくることが多いと思っていたとおり、学生側からも色々な意見が聞けて、大いに今後の参考になりました。何より、若い学生さんとの交流は楽しく、「ほんとうにやって良かった!」と思えました。

同窓会活動はなんといっても現在の信州大学と学生にとってメリットとなる活動を行っていきたくて関係者は希望しています。そのためには、先生方からのご意見同様、現役学生の置かれている状況を知り、彼らの意見を聞くことがとても大事だと思っています。

今後、細く長くでもいいから、この意見交換会を定例化していくことで、学生の側には「意見交換会に参加すれば、色々な仕事の実態や社会の現状がナマの声(本音ベースでもある)として聞ける」として定着していけば嬉しいうです、先輩の側にとっても、ちよつと柔軟性に欠けつつある自分の職業生活や生き方に新風と活力が吹き込まれる……という期待もあります。今回ご参加下さった三名の学生のみなさま、ほんとうにありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。

また、これをお読みになつている、先輩のみなさまも、次回は是非ご参加くださいませ。

「また山に おいでよー」 同窓会登山隊 西穂へ登る

同窓会副会長 轟 寛逸
(1978年入学)

梅雨明けの青い空に、北アルプスがくつきりと稜線を描いていました。今回の登山で初めて北アルプスに

登った人もいたのですが、夏色に装った山が思いっきり出迎えてくれて、「これは山を好きにならないうらないなね」とうのが、経済学部同窓会登山隊「一行の感想でした。

信州大学経済学部同窓会として初めての企画となる今回の西穂登山、話は急ピッチで進みました。

話の発端は、今年六月十八日の同窓会理事会の際の、藤原絹子理事と栗澤徹副会長との会話。栗澤副会長は、有限会社西穂山荘の常務取締役・支配人として、山小屋を取り仕切っています。理事会の前の雑談で山のことに話題が及び、理事会の中で「西穂登山をやる」という提案が藤原さんからなされた次第。幹事役は、藤原さんにおまかせしたところ、六月二十七日、同窓会のメンバーで、「レッツ・ゴー♪ 夏の西穂山荘へ♪」の案内メールが届きました。

西穂山荘に宿泊させていただき、栗澤副会長に陰に陽にお世話になることもあって、実施日は、夏山シーズン本番前の七月九日・十日の一泊二日。短時間でどれだけ参加者が集まるか、少々心配しましたが、六人パーティーができ、いざ西穂へ!

七月十日前後と言え、まだ梅雨の末期。直前まで天気予報は雨マークで、「カッパを着て、ガスのかかった稜線を歩くか……」と覚悟していました。ところが、私たち一行の西穂登山を待っていたかのように七月八日に梅雨明け!好天に恵まれ、なおかつ混雑の始まる前の北アルプスの夏をゆつくり満喫できるといふ、最高のコンディションでした。

七月九日正午に新穂高ロープウェイ「しらかば平駅」集合。集まったのは、藤原絹子さんと高校生の息子さん、人文学部経済学科一期生の小坂隆さんご夫妻、同窓会幹事の竹中敏樹さん、そ

して私の六人。このうち、藤原さん親子と竹中さんは北アルプスに登るのは初めて。小坂さんは大学時代にワンダーフォーゲル部で鍛え、今も奥様を誘って山登りを楽しんでいらつしやいます。私は、ここ数年、山に親しみ始めたところ。

今回の行程は、

- 一日目 新穂高ロープウェイ↓登山口↓西穂山荘(泊)
- 二日目 西穂山荘↓西穂独標↓西穂山荘↓登山口↓新穂高ロープウェイ

という初心者も楽しめる設定。

一日目は、ロープウェイを降りたところで昼食をとり、登山口から一時間半ほどの登り。午後三時過ぎに西穂山荘に到着すると、栗澤副会長が迎えに来てくれました。「明日天気が崩れるといけないので」という栗澤さんのアドバイスで、山小屋から十分弱で行ける丸山まで登り、しばし北アルプスのパノラマを楽しみました。そして再び西穂山荘へ。夏の山小屋の楽しみといえば、冷えた生ビール。山登りで渴いた喉にしみわたります。西穂山荘ではこの日が今シーズンの生ビール提供の初日とのこと。さっそくごちそうになりました。

翌朝、目覚めると、雲一つない青空。早々に朝食を済ませると、六時半に西穂山荘を出発し、栗澤さんのガイドで独標へと向かいました。途中、丸山から山荘の方向を振り返ると、向こうに朝日を浴びた焼岳と乗鞍岳が輝き、東側を見下ろせば、朝もやの上古地が谷間に静まっています。岐阜県側の笠ヶ岳、双六岳などを左手に見つつ、稜線を行きながら、栗澤さんから登山道の歩き方の手ほどきを受け、そこそこに咲く高山植物の名前を覚えてもらって、一同ご機嫌です。そして、西穂独標へ。直前は、急な岩場。慎重に三点支持で登って、全員見事「登頂」。眼前に現



れたのは、ピラミッドピーク、西穂高岳、ジャンダルム、奥穂高岳へと続く稜線。ここから先は上級者コースになるので、今回は独標までですが、いつか行ってみたい山並みです。独標に立ち、遠く西の雲の上に浮かぶ雪の頂白山（はくさん）を見ながら、下界とは別世界の爽やかな風を体に受けます。これこそ、そこに登った人だけが味わえる至福のひと時。今年公開された映画『岳』で、小栗旬演じる主人公の島崎三歩が「また山へおいでよ！」と叫んだときに、思わず「行く、行く」と応えなくなる心持なのです。

それから西穂山荘に戻り、小腹がすいたところで、ラーメンで舌鼓。記念撮影後、「下界へ降りたら暑いだろうな」と、後ろ髪を引かれながら下山しました。

参加者一同、西穂を満喫した今回の企画。山小屋で手厚くもてなしてくださった栗澤さん、記念写真を何枚も撮ってくださいました小坂さん、幹事役の藤原さん、ほんとうにありがとうございました。

いました。経済学部同窓会では、これを皮切りに、会員の皆様に自然や文化に親しんでいただける企画を計画していきたいと思えます。どうぞご参加ください。

同窓会幹事会報告

〔松本会場〕

日時：平成23年4月29日（金）

午後2時より

場所：信州大学経済学部研究室

〔東京会場〕

日時：平成23年5月28日（土）

午後2時より

場所：東京都 アルカディア市ヶ谷

また、地区単位、ゼミ単位などで、ある程度的人数が集まる企画をされるようでしたら、同窓会として一定の助成を検討させていただきたいと思えますので、ご連絡ください。

◎矢口会長を議長に以下について協議
5 協議事項

- (1) 幹事会の開催について
- ・開催趣旨について矢口会長より説明し、幹事会の持ち方について意見交換。
- ・出された意見については理事会にて検討していくことを確認。
- (2) 同窓会設立30周年記念行事について
- ・平成24年3月19日に同窓会設立30周年を迎えるにあたり、記念行事の在り方について協議。
- ・出された意見については理事会にて検討していくことを確認。

◎閉会（矢口会長）
午後4時00分に閉会となる。
（会長）

同窓会理事会報告

日時：平成23年6月18日（土）

午後1時より

場所：信州大学経済学部研究室

- 1 開会（樋口教授）
- 2 同窓会長挨拶（矢口会長）
- 3 報告事項

・前回理事会以降の活動内容について矢口会長より報告。

- (2) 幹事会報告
 - ・松本会場（4/29）・東京会場（5/28）で行われた、幹事会について矢口会長より報告
- ◎会則に従い、矢口会長を議長に以下について協議。

- 4 協議事項
- (1) 終身会費徴収状況について
- ・6月16日現在、1,044名であることを確認。
- ・今後も会員への依頼を重ね、徴収率を上げること確認。
- (2) 同窓会総会の役割分担
- (3) 同窓会設立30周年記念行事について
- ・平成24年7月14日（土）開催
- ・幹事会で出された意見について検討。
- ・記念行事に併行してゼミ会を呼び

同窓会理事会・幹事会報告

日時：平成23年7月16日（土）

午後1時30分より

場所：信州大学経済学部新棟6階 第一会議室

- 1 開会（樋口教授）
 - 2 同窓会長挨拶（矢口会長）
 - 3 報告事項
 - (1) 22年度同窓会活動報告
 - ・前回理事会以降の活動内容について矢口会長より報告。
 - (2) 22年度同窓会会計報告
 - ・矢口会長より報告、澤柳監事より監査報告。
- ◎会則に従い、矢口会長を議長に以下について協議。
- 4 協議事項
 - (1) 終身会費徴収状況について
 - ・23年6月末現在、1,078名であることを確認（準会員は含まれていない）。
 - ・コンビニ振込、ネット振込等について検討していくことを確認。
 - ・今後も会員への依頼を重ね、徴収率を上げること確認。

- かける。
 - ・予算は上限500万円（総会での意見により変更あり）
 - ・記念式典について協議
 - ・記念DVD制作について協議
 - ・記念品配布について協議
- ◎議長退任
5 閉会（矢口会長）
◎午後3時に閉会となる
理事会終了後、現役学生との意見交換会実施
（会長）

- (2) 同窓会設立30周年記念行事について
- ・平成24年3月19日に同窓会設立30周年を迎えるにあたり、記念行事の在り方について協議。
- ・以下について、理事会・幹事会の決定事項として総会に付議することを確認。
- ①開催日時は、平成24年7月14日 午後2時とする。
- ②記念講演会は行わず、記念DVDを制作する。
- ③記念祝賀会は、旭会館にて立食形式、会費5千円程度とする。
- ④ゼミを持っていた歴代教授全員に招待状を出状し、出席確認を行った上で、参加頂ける方々にお車代を出費（上限3万円程度）する。
- ⑤記念行事に関する予算は400万円を上限とする。
- ⑥実行委員会（運営部会と記念DVD制作部会）を設置する。
- ⑦その他
- ⑧同窓会報をメール配信で良いと

同窓会総会報告

①奥穂高登山会について毒副会長より報告。
②議長退任
③閉会(矢口会長)
午後2時50分に閉会となる。(会長)

日時：平成23年7月16日(土)
午後3時より
場所：信州大学経済学部新棟6階
第一会議室

- 1 開会(毒副会長)
2 会長挨拶(矢口会長)
3 名誉会長挨拶(徳井経済学部長)
4 議長選出
5 21K関谷昌英氏を選出
6 書記ならびに議事録署名人の任命
7 書記に95K寺村英樹氏
8 議事録署名人に3K野口明美氏、05K井出由紀子氏を任命
9 議事
10 事業報告および会計報告の承認について
11 矢口会長より資料に基づき説明
12 澤柳監事より会計監査報告
13 質疑応答は特になく、全員の拍手によって承認された。
14 予算および事業計画について
15 矢口会長より原案の説明
16 同窓会設立30周年記念行事について
17 矢口会長より資料に基づき説明
18 開催日時は、平成24年7月14日午後2時とする。
19 記念講演会を行わず、記念DVDを制作する。
20 記念祝賀会は、旭会館にて立食形

式、会費5千円程度とする。
ゼミを持っていた歴代教授全員に招待状を出状し、出席確認を行った上で、参加頂ける方々にお車代を出費(上限3万円程度)する。
記念行事に関する予算は400万円を上限とする。
実行委員会(運営部会と記念DVD制作部会)を設置する。
多数の意見、質問を得て議事(2)(3)について承認された。
(4)その他
長瀬副学部長より、昨年好評だった池上彰氏による特別講義が8月7日〜11日まで開催される。今回は、BSジャパンが番組として取り上げ、9月に放映される旨のお知らせ。
議長退任
閉会(毒副会長)
午後4時30分に閉会となる。(会長)



平成22年度会計報告

Table with financial data for 2022 fiscal year, including income and expense sections.

Table for next fiscal year's surplus, including assets and liabilities.

平成22年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成23年4月29日

監事 川田 智 弘 監事 澤柳 信也

日本学生支援機構(旧・日本育英会)の奨学金を返還している方へ

信州大学在学中に日本学生支援機構奨学金を借り入れされていた方で、卒業後、被災した、就職できなかった等の理由により経済的に奨学金の返還が困難な場合は、割賦金を減額、または返還期限を猶予する制度があります。

申請手続等の詳細につきましては日本学生支援機構WEBサイトをご覧ください。

信州大学学生総合支援センター

長瀬ゼミ

豊浜 陽介



一後輩達のゼミ紹介一

こんにちは。長瀬ゼミのゼミ長(平成二十三年度)の豊浜と申します。この度、同窓会報のゼミ紹介をさせていただきます。ただ今機会をいただきましたので、長瀬ゼミについて紹介します。
長瀬ゼミは、会社法を専門として勉強するゼミです。今年度のゼミ生は、四年生一名、三年生六名、二年生八名の計十五名です。活動は、学生を数班に分け、発表する班が興味を持ったテーマを調べて、レジュメを用いて発表、その後テーマに関して各班での議論と全体での議論をするという形式をとっています。発表を担当しない班の学生は、事前にテーマを予習してゼミに臨むので、知識の前提が整った状態で議論をすることが出来ます。ゼミでの議論は、人と話し合う力を身につけることができ、とても良い経験をする事ができていると思います。また、テーマに選ばれる内容は、最近話題になっている企業活動に関する法律問題が多く、興味を持ってゼミで勉強しています。
長瀬ゼミの特徴のひとつに、先輩と後輩の関係がとても親密であるという点があります。現役のゼミ生の間で

連載



はもろんのことですが、卒業したOB・OGの方々とも連絡を取り、時々ゼミに顔を出していただいています。その際は、先輩方の社会での活躍の様子等を聞くことができ、私たちの励みとなっております。このことは長瀬ゼミの財産だと思っております。これからも受け継いでいきたいと思います。

私たちは、ゼミの時間帯以外でも、活動することがよくあります。勉強面では、公務員試験のための勉強や、法科大学院進学のための勉強と一緒にしています。勉強以外では、合宿をしたり、一緒に遊んだりします。昨年は軽井沢に一泊二日のゼミ合宿に行っていました。合宿等では、勉強をしている時以外のゼミ生の顔を見ることができ、仲を深めることができました。このように勉強以外の活動は、ゼミの活動に良い影響を与えていると思います。これからは、長瀬先生の下で、勉強を頑張り、ゼミ生ともに成長していければと思っています。以上で長瀬ゼミ

関ゼミ

今枝 彩歌

の紹介を終わります。読んでくださりありがとうございます。読んでくださりありがとうございます。

関ゼミは、経済学部で唯一の、会計学を学ぶゼミです。通常の講義で会計学を学ぶ機会がありませんので、更に深く会計学を学びたいという学生が集まっています。

ゼミでは主に、企業の財務分析における基礎的事項の習得と問題演習、グループでの企業分析を行います。また、今年の前期のゼミでは、IFRS（国際会計基準）導入に関するディベートを行いました。

財務分析における基礎的事項の習得と問題演習では、まず、財務会計の理論について、二年生がテキストの内容に沿ったレジュメを作成し、それを全員の前で発表します。そして、三年生が二年生の発表に基づいて補足説明をし、全体で議論します。

グループでの企業分析では、グループごとに割り当てられた企業に関して、安全性や収益性、成長性などの分析を、その企業の財務諸表をもとに行います。この企業分析では、定量分析に加え、セグメントや中長期経営計画などについての定性分析も行います。そして、分析結果をグループで検討し、その内容を全員の前で発表します。この企業分析で、私たちは、単なる規模やイメージ、知名度にとらわれない企業の実態を知る方法を学びました。

IFRS（国際会計基準）導入に関するディベートでは、事前に配布された資料や、各自で収集した情報をもとにして、IFRS導入の賛否についての議論を行いました。また、今年の後期のゼミでは主に、



管理会計の基礎的事項の習得や、会計に関するトピックスについてのディスカッションを行う予定です。

関ゼミは、今年から十六名の新ゼミ生を加え、総勢二十七名で活動しております。経済学科では最大規模のゼミとなりました。大人数になったことで、今まで以上に授業の中で一人ひとりが考え、意見を持つことを大切にしています。

また、一人ひとりが楽しめるゼミとなるよう、定期的に飲み会を開き、親睦を深めています。

関ゼミでは毎年、夏季休業時にゼミ合宿を行っています。ゼミ合宿というと、工場見学や企業訪問などの、学習面を踏まえたものをイメージされると思いますが、私たちの合宿は、ゼミ生同士の交流を深めることを目的としており、レジャー活動がメインとなります。

今年は、温泉やバーベキュー、ラフ

会員による業界展望

「現代の産業・社会事情」担当講師

「テレビは冬の時代か？」

榎長野朝日放送

山岸 寿美

(1987年入学)

ティンク体験をしに群馬県へ行きました。特に、ラフティンクでは大自然を満喫することができ、貴重な体験となりました。

関ゼミは、今年から十六名の新ゼミ生を加え、総勢二十七名で活動しております。経済学科では最大規模のゼミとなりました。大人数になったことで、今まで以上に授業の中で一人ひとりが考え、意見を持つことを大切にしています。

また、一人ひとりが楽しめるゼミとなるよう、定期的に飲み会を開き、親睦を深めています。

関ゼミでは毎年、夏季休業時にゼミ合宿を行っています。ゼミ合宿というと、工場見学や企業訪問などの、学習面を踏まえたものをイメージされると思いますが、私たちの合宿は、ゼミ生同士の交流を深めることを目的としており、レジャー活動がメインとなります。

今年は、温泉やバーベキュー、ラフ

動なので、未取得者も既取得者から自主的に指導を受け、理解を深めることができます。

簿記検定は就職にも大変役立つ資格であるため、取得することはゼミ生にとって大変意義のあることです。

以上のように、ゼミ活動で学んだことを社会で活かすことができるように、私達は、日々会計学への知識を深めています。

みなさんはインターネット検索する時にGoogleを使ったことがありますか？恐ろしいほどのスピードと精度でネット上に転がっている情報を探してくるアルです。最近ユーザの好みを勝手に分析して的確なコマンドで表示する生意気なGoogleでは、みなさんは民放テレビを見ますか？部屋の中にデカイ顔で鎮座し、スイッチを入れると幾つかの番組から好きなモノを選んで見る事ができるアルです。番組の合間にコマンドで放送しながら、朝から晩まで番組を放送している民放テレビ。

誤解を恐れずに言えば、最新技術の塊であるGoogleと、七十年ほど前に生まれた古いメディアである民放テレビはとてもよく似た存在なのです。

私は一九九一年に開局した長野朝日放送という民放テレビ局に勤務して二十一年目になります。たまたま卒業の年に開局するというだけで入社試験を受け、以来テレビの世界で仕事をしていきます。ニュース番組を作ったり、編成という部署で働きながら、これまでの人生の半分近くを過ごしてきました。その間テレビを取り巻く環境は大きく変化しました。中でも大きな変化はインターネットです。

そのインターネット業界の巨人であるGoogleと、民放テレビがなぜ似ているのか。それは、どちらも無料でサービスを提供する広告ビジネスだからです。世界中から優秀な頭脳を集めたGoogleは、あの素晴らしい検索エンジンを無料でユーザーに提供しています。一方の民放テレビは：Googleほど素晴らしい技術か否かは別にして、多くの制作費と時間とマンパワーを投入した番組を無料で提供しています。どちらもその収入源の多くは広告、どちらも典型的な広告ビジネスです。

携帯電話分野にも進出して拡大を続けるGoogleは、広告ビジネスの巨人になりました。一方かつての勢いを失ったと言われる地上波テレビ。広告媒体（メディア）として生き残るためにやるべきことは何と変わらぬ。分野は違っても、どれだけ魅力的な存在になってユーザーの時間を奪うことが出来るか？が勝負を決めるのです。人間に与えられた時間は一日二十四時間。この二十四時間のうちどれだけの時間を自分たちのメディアで過ごしてもらえぬかが広告媒体としての価値を決めます。より多くの時間を奪うことが出来たメディアがトップに君臨し、多くの広告費を獲得することができるのです。新聞も、雑誌も、ラジオも、テレビも、ニコ動も、YouTubeも、Twitter、Facebook、Twitch、TikTokも…みんなモバイルです。テレビ業界はそれを視聴率という指標でカウントし、いかにユーザーの時間を獲得しているかをアピールしてきました。民放テレビがかつてと同じような方法だけで利益を上げられる時代は終わりました。若い世代ほどテレビを見なくなつたという調査結果もあります。「テレビがつまらなくなつた」という指摘もよく耳にするようになりました。それはテレビが衰退したというよりも、テレビ以外にも時間を割きたくなる様々なメディアが生まれてきただけなのです。

二〇一一年三月十一日。出張から会社に戻る途中に強い揺れを感じました。携帯電話の緊急地震速報で「震度7」という表示が目に入り、当時編成部長を務めていた私は直観的に数日間の特番体制を覚悟しました。実際、長野朝日放送が所属するテレビ朝日系列は、七十四時間にわたる特番をコマージュなしで放送し続けました。これは日本で民放が生まれてから経験したことのない災害報道です。民放がコマージュを放送しないのは、外部から見ると以上に大きな決断です。しかし私たちを含め全ての民放テレビは躊躇なくコマージュなしでの放送を決めました。人々の命を奪い、家族を奪い、家を奪い、仕事を奪った地震と津波、そして原子力発電所事故その惨事をテレビは電波という強靱なプラットフォームを使ってリアルタイムで放送しました。報道内容・手法が妥当だったか否かは私自身答えが出ていません。ただ、テレビにしか出来ない震災報道だったことは間違いありません。

震災直後から、Googleをはじめとするネット業界も自分たちの特性を生かした情報発信を始めました。丁寧な安否情報や膨大な避難所情報など、災害に関連してネットがこれほど機能したことはかつてありません。一過性のテレビには決して出来ない役割をネットが果たしているのを目の当たりにして、私はテレビの限界や悔しさを感じ、私もネットの力に感動しました。東日本大震災は、民放テレビがここに向かうべきなかを改めて考えさせられる出来事でした。それは私たちが完全な商業主義だけでは成り立たないメディアであることの再確認でもありました。そして同時に、テレビにしかできない事が必ずあると確信させられた。生涯忘れられない出来事となりました。

公務員のすすめ

西尾市役所

市川 京之助

(1992年入学)

「平成二十三年三月三十一日付けで任

用を打ち切ります。」西尾市、一色町、吉良町、幡豆町の合併のため、私が勤務する愛知県西尾市では約七十名の臨時職員が職を失いました。以前の私は、一方的に生活を変えられてしまう臨時職員の立場でした。しかし、又坂行政法ゼミの先輩であり、西尾市職員組合の委員長でもある築瀬貴央さんに鍛えていただいた(?)ことにより、三十歳でごみ収集の現業職として西尾市に正規採用されました。その五年後に後期高齢者医療担当の事務職となった経緯については、「ワーキングプアからの脱出、三十歳からのフレッシュ公務員」と題して現代の産業・社会事情で講義をさせていただきました。

平成二十一年の講義の後に、まさか自治体合併まで経験するとは思いませんでしたが、市長リコールまで発展した西尾市の住民運動については、今回のスペースでは書ききれません。講師等と呼んでいただく場合は、築瀬さんをお招きください(本人の承諾は得ています)。

自治体合併によって財政状況が好転するかという点、地方交付税を交付されてきた団体同士で合併した場合は、その交付税の総額が減って行くのみです。西尾市は不交付団体でしたが、今回の合併で交付団体になりました。全国的にどの自治体も厳しい財政状況が続きますので、全体的に見て公務員は斜陽産業です。それにもかかわらず、西尾市の平成二十四年度新規採用倍率は事務職で十七・六倍あります。西尾市では、事務職の採用枠を四十歳まで拡大しており、採用予定人数は七名です。

倍率が高いことは公務員人気を示していますが、自治体は職員の非正規化が進んでおり、元々の採用枠が少ないという原因もあります。財政が厳しいことを理由に、窓口要員の事務職員、保育士、給食調理員、学校用務員、ごみ収集の作業員等は正規職員の採用をほとんどしません。

競争試験をくぐり抜けて正規職員となったとしても、働き過ぎで勤務時間を減らそうと民間企業から公務員に転職した同僚の話によると、勤務時間がさらに増えたあげくに給料が減ったという例もあります。

全員がこのような状態であれば、働く場所としてあまりお勧めはできませんが、定時に帰ることが出来る部署もあります。長年勤務する上で職員組合がきちんと機能していれば、生涯を通じて働き方のバランスがとれるのではないかと思います。

あまり良い話が続きませんので、次の点から公務員の良さをお伝えしたいと思います。

① 転勤がほとんどない。
勤務地がほぼその市町村内にあるため、地域に根ざした職場といえます。ただし、県庁等に派遣されたり、今年度の西尾市のように合併することもあれば、全く勤務先が同じというわけではありません。

② 信州大学経済学部で学んだことが活用できる。
行政事務の根拠は法令であり、地域全体の利益を考えようとするとマクロ的な経済学の視点が必要となります。しかし、私自身は又坂先生が名前を覚えてしまうほど勉強しなかつた学生です。ので、今更ながらもっと勉強しておけばよかったと思います……。

③ 公共の福祉のために働ける。
面接の回答のようですが、何のために働いていますか？と問われたときに、「自分の生活が第一」であるのは前提ですが、地域社会のために働いて、生活ができるのは公務員であるからです。

NPOがもてはやされている時期もありましたが、自活できるNPOは、地方都市では少ないのが現状です。西尾市は合併して人口約十七万人になりましたが、愛知県で九番目の人口規模の自治体になったからといって、すぐに行政が効率化されるわけではありません。同じ人口規模の自治体と比べても、世代構成も事業規模も土地活用もそれぞれ異なります。

だからこそ、地域の実状に合う行政をおこない、住民の方に気分良く税金を払っていただくためにも、公務員は仕事について全力で努力を続ける必要があります。

そのような公務員が全国から集まるという、自治体職員有志の会が開催するシンポジウムが八月二十七日に名古屋で行われました。

そこで思いがけず、愛知県職員のスタッフに参加していた又坂ゼミ同期の辻本哲朗君に会うことができました。当時の又坂先生から散散(?!?)評価を受けていた二人ですが、こうして又坂ゼミOB同士で再会できたことはうれしく思います。卒業生にも公務員が多いかと思えますので、いつか信州大学でのシンポジウムが開催できればと思います(又坂先生が退職するときに相談しましょう)。

最後は掲示板のようになってしまいましたが、多くの人と交わり、考え、実行し、失敗から学ぶことの繰り返しで人が成長させます。勢いで提案したシンポジウムですが、ご賛同いただける方はメールでご連絡をいただければ幸いです。

最後までお読みいただきありがとうございます。ごさいました。

【連絡先】 Ikyonosuke@gmail.com



「現代の産業・社会事情」を振りかえって思うこと

Freebalance(株) 矢野 剛 (1999年入学)

去る二〇〇九年度に「現代の産業・社会事情」の講師を担当させて頂き、自ら携わってきた金融業界と財務・会計系のコンサルティング業界の事を中心に話をさせて頂いた。学生の皆さんにとって、どこまで役に立つ話となったかはわからないが、私自身にとっては大変貴重な経験をさせて頂いたと感謝している。そもそも講師を担当することになったきっかけは、卒業後に知り合ったある方が、偶々信州大学経済学部の先輩であり、その方も以前にご担当された本講義の講師役を担当教官の方へご推薦頂いたからだった。毎年起こる異常気象が、もはや「異常」ではなくなっているかの如く、日本経済にも毎年何かしらの経済危機が起きているように思う。近年では、二〇〇八年のリーマンショックからの脱却是非が引き合いに出される事が多いが、産業全般に関わる金融業界も、その影響を強く受けてきた。個人的にはコンサルティングを生業として飲食業界に携わることが多い今、浮き沈みの激しい飲食業界に対する銀行の審査姿勢が厳しさを増しているのを感じる。しかし、浮き沈みが激しいということは、新旧の入れ替わりもあり、流行の変化を敏感に察知し、消費者ニーズに依る最前線の業界ということであり、そのニーズにうまく応じている場合は好調な飲食店も多い。それらの飲食店は、一層の付加価値を提供しているわけだが、一様に銀行には過去の業績の

みを評価する審査姿勢を改め、今後の業績も評価できる審査能力を身につけてもらいたいものである。講義を担当した当時、株主や債権者に対して、投資対象となる会社の企業価値評価や事業再生に携わっていたが、昨今は中小企業を中心に財務・会計系のコンサルティング(財務戦略・資本政策)を行っている。いわゆるコンサルティング業界に属して、まだまだ経験も浅く、若輩者の自分だが、日々感じることもある。コンサルタントとは何か。そもそもコンサルタントという肩書は必要なのかということだ。何年前か前に大手メーカーに勤める某方からこんな話を聞いたことがある。社員食堂の仕入業者から、原材料(小麦、燃料費)の高騰にあたって、納品商材の卸値を上げさせてほしいという要望があった。皆さんなら、どう対応されるだろうか。世界的にも資源価格が高騰するなかで、仕方がないので値上げに応じ、販売価格へ転嫁する方法をとるだろうか。誤解を恐れずに言えば、経済学的にも物の値段が上がることには、決して悪いことではない。業者は「安心」である。それにも、買い手側の立場を利用し、値上げには応じられないと突っぱねるだろうか。これでもなくとも従業員の利益は守られる。しかし、その方とつた行動は、そのどちらでもなかった。両者の利益を守る第三の道である。その方は業者の担当者、どうすれば現状の値段を維持できるかを徹底的にヒアリングしたのでは何か。現状の納品で困っていることは何か。何を換えれば値上げせずに済むのか。結果、週何度かの配送コストが負担になっていくことが判明した。食堂の現場とも話し合いをして、配達回数を減らすことが可能になった。相手側のコスト削減を提案し、結果、値上げは

回避されたのである。大手メーカーからすれば、相手は中小の食材業者である。買い手側の立場を利用し、値上げをするなら他の業者へ切り替えると、脅すこともできただろう。しかし、取引の効率化によって、自社(従業員)の利益維持のみならず、仕入業者の収益構造も維持させた。このことで業者の担当者は、「次に困ったことがあっても、この人には本音で話しをしよう」と思ったに違いない。この人には何が相談できるだろうではなく、この人に相談したいと思ってもらえること、これこそがコンサルタントに求められる素養なのだと、その時学んだ。コンサルティングという看板も、コンサルタントという肩書も必要ないのだ。つまり本来、会社内のひとりひとりがその役割を担っているのだ。何を隠そう、某方とは冒頭で述べた本講義の講師役をご紹介頂いた方である。最近話題のジャーナリストの池上彰さんがこんな話をしていた。NHK在籍時、本局の主要ポストに就きたが、若手に対し、自分の経験からも地方局へ行くことを勧めていたそうだ。業務の一部だけでなく、組織横断的に様々な経験が出来るため、出世は出来なくても、ジャーナリストとして成功出来るからだという。正しくその通りだと思う。コンサルティング業界に限らず、あるいは職場内外を問わず、組織内で個人がどう「生きる」「かではなく、個人が組織内でどう「活かす」かが大切だと思う。学生の方々に「学生のうちにして欲しい」と思う。そして、会社や肩書にこだわらず、何が出来るのかに磨きをかけてほしい。前回講義にあたって、学生に講義をするために自己の学生時代を振り返り、また今回の寄稿に際しても、現在

の自分を見つめる良い機会となった。卒業して十年が経とうとしているが、今でも年に一〜二回は、松本を訪れる機会がある。駅前や街の様相には変化を感じるが、大学時代の同期やお世話になった商店街の方々は今も変わらな

会員のたより

経済学科一期生 大阪同期会

横山 直己 (1966年入学)

二年前の九月上旬、大阪同期会に初めて参加した。会場は、大阪ミナミ上本町「なごみ(和み)」。大阪ミナミへは、私のいる神戸から阪神電車經由近鉄で乗り換えなしに行けるようになった。この二・三年大阪同期会の定席になっていた「なごみ(和み)」は、近鉄奈良線大阪上本町駅地下三階の到着ホームから一階の大阪線改札口を出て、近鉄百貨店を横目に上本町七丁目北詰信号を左折するとすぐに行灯が見える。今では、昨年夏完成した新歌舞伎座がある複合ビルを抜けると真ん前に到着する。お店は地下にあり、階段を二度ほど曲がり下ると左手に格子戸がある和風の感じがいい店だ。左手奥の個室にかつての仲間がいた、四十年近くく無沙汰だった仲間が。市原(健)・大江・大槻・小坂・小森・清水(健)・田原・戸田・松山。かれらの容貌から当時を思い起こすのにその時間はかからなかった、不思議なものだ。この同期会は、卒業二・三年目くらいに在阪していた石井(現新潟)・大江・大槻・小坂・清水(健)・戸田

い。ここに来ると常に誰かに元気をもらっている。信州、またそこにいる人々は、今も昔も自分にとって、大切な存在である。信州で関わった全ての人々に感謝したい。また、これからは何か返返しが出来ればと思う。たちが始めたと言った。その後、幾度か集まっていたようだ。長らく続いているのは、私たちに僅かながらでも共通したベースの断片が残っているからだろう。この共通したベースは、各自がそれぞれ県の森キャンパスを中心に松本で過ごした四年間にあった。私たちは、昭和四十一年四月二日九時「数学」ではじまり三日十七時の「国語」で終わった入試を経て、二十二日松本市民会館の入学式で経済学科の同じ仲間になった。コマクサをあしらった襟章が、まぶしく見えたことを記憶している。最近の同期会では、一昨年に田原と私が新規参加、昨年三月には松山が帰京し橋詰の新規参加があった。昨年の大阪同期会が、その年の八月七日「松本ぼんぼん」にあわせて「しずか(銘酒「真澄」が蘇ってくる昔懐かしい店)で開催された。四十年にして最初の同期会は、五十五名の卒業生で二十八名の参加があった大盛況だった。コイデインイトしてくれた大江・小坂・清水(健)ら関西勢のパワーに感謝した次第だった。これらの同期会で各々が様々な立場で語り合う当時は、私なりに思い出し

準備していた頃、経済学部に関する新聞記事が目にとまった。一つは「高梨先生の訃報」であり、もう一つは「池上彰氏夏季集中講義TV(BS1-JAPAN)放送」だった。この二つの話題に沿って整理してみる。

(一) 高梨先生のこと
私は「玉田ゼミ」であった。高梨先生のどちらかといえば「上から目線」にはいささか抵抗感があった。むしろ丁寧な話を聞いてくれる玉田先生に強くひかれていた。しかし、高梨先生のある日の講義には、非常に新鮮味をもって聴いたことを今でもはっきり覚えている。

昭和四十二年十一月二十九日の外書購読授業の時、先の十八日に英国が戦後二回目のポンド切り下げを行ったことに対する先生の見解を、詳細に述べられた。ドル・ポンドを基軸にする国際通貨体制維持の危機、そこにおけるIMFの役割、なかでも当時創設を検討されていたであろうSDRについて解説された。新聞・雑誌の活字からしか世界や日本の動きを知ることができなかった当時、目の前で世界を解説してみせ自分の見解を明確に述べられたさまには、正直驚いた。本の虫になって思考するよりも、この行動が私たちに求められているのだらうと考え、現実の課題を正面に据えて思考し対応していく姿勢を学んだ。とは言っても、先生の上から目線には馴染めなかった。

しかし、先の経済学部三十周年パーティーでお会いした時、私のかつての会社へ労使関係の調査に来られたことを懐かしそうに語っていらつしやう丸くなった……と痛感した。惜しい先生を亡くしたものだ。

(二) 集中講義のこと
池上氏の件を知り、いまでも「集中講義」なるものが続いているのだとあらためて大学に親近感を覚えた。私た

ちの時代は設立間もないことから、教師の不足を外部講師の集中講義形式で単位修得がなされていたのだらう。その外部講師たるや、当時の新進気鋭の先生方だったと記憶している。今でもよく覚えているのは、林周二・中村隆英・田口富久治の各氏だ。

林氏は、当時「流通革命」という本を著しベストセラーになっていた。父親の本棚に、新書判のこの本があったので良く覚えていた。偶然昼休み時間に校内でお会いした際、近くに見晴らしのいいところがないかと尋ねられたので、県の森キャンパスすぐ南の薄川と筑摩神社とに案内した。薄川に架かる橋から北アルプス連峰を長い間眺めていらつしやうた。寡黙な方で、案内が終わったときに一言「ありがとう」とだけ言われた。満足されたのか今ひとつだったのか、判断に苦しんだ次第だった。

中村氏は、統計学を講義された。ガリ版刷りわら半紙もどきのテキストで教えていただいた。田口氏は、エネルギーにまさに口角泡を飛ばす勢いで熱く政治思想史を語っていた。仕事



(一学問) に対する、真摯さを彼等から吸収できたことを思います。

思いだし始めれば尽きることがないほど出て来るものである。それもこれも、大阪にいる同期生とたまに飯を食い酒を呑むことが源となっている。僅かながらでも同じ環境で同じ時間を過ごした経験は、いつになっても一致する雰囲気をもっている。この雰囲気、一人でも多くの同期生と共にしたいものである。来年七月十四日には、同窓会設立の節目の催しがあるとのことだ。昨年の「しずか」のように、経済学科一期生が多く集まればさぞ楽しいことだらう。そのためにはまずもって、大江・小坂・清水(健) 氏らの音頭取りで大阪同期会が大阪ミナミ上本町「なごみ(和み)」で開催されることにある。遅くとも鍋の季節には、『集合』のメールが入ってくるだろうことを今から心待ちにしている。

卒業、そして就職

野口 明美
(1999年入学)

信州大学経済学部同窓会が三〇周年を迎えるとのこと。ということは、信州大学経済学部の第一回卒業生である私は、卒業してからそれだけの年月がたつているということになるわけですね。ほんのちよっと前に卒業したと思つたのに、とは言い過ぎですが、それにしても年月の過ぎる速さに驚くばかりです。

私が卒業した昭和五十七年当時、雇用機会均等法も施行前で、女子大生就職氷河期と言われた時代でした。もともとインターネットもない時代、男子学生のもとに続々と送られてくる就職情報誌や会社案内をしり目に、女子学生が入手できるのは学生課におかれた

資料だけ、という厳しきでした。募集要項に堂々と「男子学生のみ」とか「女子は短卒のみ」なんて書かれていました。今そんな事を書いたら、たちまち(悪い)ニュースですね。

そんな時代、もともとなんでもギリギリまで動けない私は、就職活動にも出遅れ、なんとかなるさとのんびり構えていました。大学四年の秋になり、もう数少ない選択肢の中から私が就職した会社は、松本市に本社を置く設立して一〇年ほどの小さな情報システム会社でした。コンピューターなんて触ったこともないし仕事の内容は良くわからないけれど、「手に職がつくらしい」ということで選んだ会社でした。

小さな会社は、社内の雰囲気もアツトホームで、人数が少ないから何でもやらなくてもはなりません。電話番号も茶くみも、もちろん掃除も新入社員の仕事です。

でも、電話番号一つだって、お客様と会話するという社会人としての最低限の常識を覚えてくれました。お茶くみだつて、先輩社員とコミュニケーションをとるきっかけを作ってくれます。コンピューターも、見たこともなかった私にとつて、仕事では覚えることばかりで、もしかししたら、学生時代よりも勉強したかもしれません。忙しかつたけれど、生き生きとしていたように記憶しています。

そんな小さな会社のはずだったのに、時代の流れか合併を繰り返して、気がついてみれば社員七千人の大きな会社の一員になってしまったから自分でもびっくりです。転職したわけでもないのに、社名は五つ目です。

華やかなバブルの時代、そしてその崩壊と、社会情勢は変わり、信州大学を卒業していった皆さんそれぞれの就職にはいくつものドラマがあつたことでしょう。

今、就職状況はとも厳しいと報道されています。自分がやりたいこと、入りたい会社も狭き門に阻まれ、希望道理にならないことも多いでしょう。しかしここ数年、就職面接に臨む学生たちと会話していると、なぜこの会社を就職先の一つとして選んだのか、全くわからない学生が多くなつたように思えます。ネットが情報として大量に入手できるせいなのか、質問しても皆さん同じような回答です。

就「職」なのか、就「社」なのか、あるいはもう何でもいから仕事に就きたいのか、どんなことでも良いのです。少し立ち止まって考えてください。自分が何をしたいのか、それがかなわないなら何を求めて会社を決めるのか、譲れない線は何なのか、自分で整理してから面接に臨むことをお勧めします。自分として一番重要視することはいく、何を求めているのか、そんなことを堂々と話してもらおう、この会社に合うのか、一緒に働くことが学生自身のためになるのか、採用側に伝わってきます。

自分が一番重要だと思つたものを入るための就職活動をぜひ実現してください。

また、既に就職したけれど、違和感を覚えている卒業生がいらつしやうかと思つています。こうして三〇年を「会社」で過ごしてきた私からアドバイスできることは、「本当にやりたいことは何か」を考えるのはいつでも遅くない、ということですね。「本当にやりたいこと」をやるために今の仕事果たす役割を考えてください。実現するための生活手段でも、足がかりでも、とりあえず見つからないからでも良いと思つています。一人ひとり、仕事をする意味は違うからです。ただ、仕事をする限り、そこで自分のできるだけの力を

發揮してください。
私も常に「自分にとつての重要なこと」を見つめながら、もうしばらく仕事を続けて行きたいと考えています。

同窓会報によせて

奥原 明
(1991年入学)

今回、同窓会報への寄稿をお受けし、さて何を書こうか？と学生時代同じく、これまでの会報をひっぱり出し、思案に耽ること一ヶ月余。元来の締切り間際にならぬと上がらぬ腰の重さに呆れつつ画面に向かっております。

早いもので経済学部を卒業し十七年が過ぎようとしています。私が入学した一九九一年は、バブル経済の後退期でありましたが、二〇年を経た現在からみると様々な面で賑やかな時代でした。当時、入学生の六割から八割位が長野県外からの学生であったと思いますが、地元出身の私としては、それが却って新鮮な雰囲気であったことを思い出します。

在学当初は、軟派なサークルも良いよなあとガイダンスを渡り歩き、いつの間にかE.S.Sへ入部することとなりました。が、時間にルーズな深層性格も災いして、幽霊部員のままフェードアウトし経済学部の奥山先輩などご迷惑をおかけしたことが未だに心残りです。その後は、ほとんど学校とアルバイトを往復する毎日という、振り返ればありきたりな生活を過ごしていました。そのような平凡な学生生活でしたが、幽霊部員時代の他学部の友人や同学部の友人など様々な巡り合いもあったものです。
まず、同学部のO君とは、確か二年次後半頃より交流が始まりました。彼

とは公務員試験の自習会を行っていたが、学習よりは彼が思いを寄せる女性の脱線話に興じつつ時間が過ぎるばかりでした。卒業後、O君は某大手通信企業に就職しましたが、間もなく鬼籍に入ることとなり、今でも彼の住んでいたアパートの近くを通るたびに思い出に耽るばかりです。また同学部のS君とは、一年次のロシア語講座で同席した仲であり、在学中にロシア留学するなど、私には無いバイタリティーに今でも頼もしさを感じています。
さて、学部では野地先生のゼミに所属させていただきました。夏の軽井沢富山水見への遠征合宿、冬の野沢温泉スキー合宿など男性ばかりのゼミならではの楽しみもあり、経営コースのゼミが多少なりとも羨ましく感じつつも、国内外の事象に関するテクストを用いての対話による学習の楽しさを実感させていただいたことに感謝している次第です。
卒業後は、長野県外への就職も考えましたが、地元の菓子店に勤務し現在に至っています。長野県を観光で訪れる諸先輩の皆様にはお買物いただいたりもせみのW先輩とご一緒に同窓会総会へ時折参加させていただく程度でしたが、数年前より生協売店との商品取引が始まり、業務で信大構内へと足を踏み入れる機会を得ました。生協売店前の公園や人文学部近くのサークル棟にいる学生を眺めつつ、当時の自分に投影してしまうことに年齢を感じるものとなりました。
本年度、これまで何度か総会等に参加したことが要因なのでしょうが、同窓会より幹事を仰せつかることになりました。地元に残っている卒業生としては光栄であるとともに果たして自身に何が出来るのだろうかという不安も同居しています。近々の会合へ参加

させていただいた折も、やはり諸先輩方のご意見にただ耳を傾けるばかりです。数多のコミュニティが存在する中で、信州大学経済学部同窓会としてどのようなルーツを創造し育んでいくのか？来年度、同窓会発足三〇周年を迎えるにあたり、様々なイベントが計画され多くの皆さんのご参加を期待するものであります。そしてノスタルジィを超えた一歩先に今後の同窓会が担う役割と存在価値を見出し、いけるのかもしれない。卒業し実務を経験したからこそ募る知の欲求へ橋渡しとして学部先生方による会員向けセミナー企画など如何でしょうか。
さて、平成二十三年も残すところ三ヶ月となりました。
三月に発生した東日本大地震では類を見ない惨事に心を痛めるばかりです。被害に遭われましたご関係の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。個人としては微力ながらも本会のお役に立てるよう努めて参りたいと念じ、締めくくりにさせていただきます。
読者の皆様には乱文のところお読みいただきありがとうございます。内容に失礼がありましたらご容赦願います。

八ヶ岳自然と森の学校だより

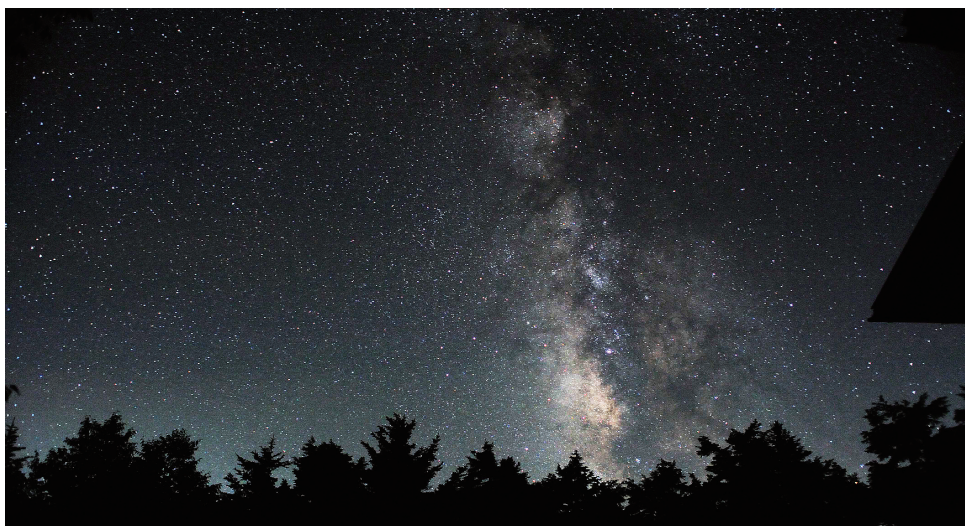
高木 保夫
(1977年入学)

星に一徹―一九八〇年二月号の月刊天文ガイドの表紙は、原田茂さんが飾っています。高見石小屋を背に、ブレゼントされた望遠鏡を磨いています。「高見石はこんなに星がきれいなのに、望遠鏡がないのはもったいない」と泊

り客たちが、筒を設計・制作・鏡を磨いてくださったものがはじまりで、いまは三百五十ミリの反射望遠鏡が、高見石の標高三三〇メートルから星空をにらんでいます。三代目になります。森の学校が始まったのは一九八九年、高見石小屋での星座観測会は翌年から名物講座で、講師も長野市立博物館の大蔵満寿芸員がずっと務めてくださっています。
八月二〇日・二十一日の森の学校は、あいにくの天候に備えて、大蔵先生は天文ショーの講義内容をパワーポイントにして用意され、同僚の是枝敦子専門員が、プロジェクトを担ぎ上げ、アシスタントをしてくださいました。
今年の十二月から来年の八月にかけて、天文学上であらう珍しいビックな現象が重なり、宇宙の神秘が観測できそうです。
まずは、本年十二月一〇日土曜日の皆既月食からスタートします。月食は一年間に、〇か一から二回、まれに三回起き、そのうち皆既月食とは、太陽と地球と月が一直線に並び、月が地球の本影にすっぽり隠れることによつて起きます。今回は、十二月一〇日の午後九時四十五分に欠け始め、午後十一時六分に皆既食になり、午後十一時五十八分に皆既食が終わります。そして午前一時十八分にもとの満月にもどります。月食が起こるのは必ず満月であり、年間十二回から十三回も満月はありますが、日本で月食が見られるのは限られてきます。ましてや皆既月食になると次回は二〇一四年になるそうです。今回は日本・オーストラリアが観測可能な地域です。晴れるといいですね。ところで皆既の月は、なぜ赤いのでしょうか。これは、太陽の光が地球の大気を通過する時に、青い光が飛び散り、赤い光が残るからだそうで、日の出や夕日と同じ原理とのことでした。

広報誌『信大NOW』のご案内
信州大学のニュースや教育・研究内容などを掲載する広報誌です。信州大学WEBサイトからもご覧いただけますが、冊子をご希望の方は同封の定期購読をご利用下さい。

続いては金環日食、来年の五月二十一日の月曜日に起こります。太陽↓月↓地球の順に並びます。今回は、静岡・横浜・東京からが見えます。みなさんは、皆既日食と金環日食の違いがどうして起こるのか？ご存知でしょうか。大蔵先生は、模型を使って受講生に説明してくれました。月が地球に近いと、月の影で太陽の光が全く当たらない地域ができて、皆既日食となります。一方で月の軌道が地球から遠い時には、太陽の縁の光が届いて、細いリングのように見える金環日食になるそうです。博物館は月曜定休が多いのですが、来年の五月二十一日は多くの施設で観察会が行われるのでは？と期待されます。この日は日本のあちこちで、金環日食が話題をさらうでしょう。
ここで大蔵先生は、受講生に工作も用意してくれました。日食メガネづくりです。フィルムはドイツ製、厚紙に枠を切つてフィルムを貼り付けました。かつては、黒い下敷きやフロッキーディスクのシート、カメラフィルムな



いて座付近の銀河

どが使われていたのですが、網膜ヤケドなどの危険性がありますので、ご注意ください。
日食メガネと一緒に、太陽の映像を撮れるようにと、ピンホールの模様づくりもしました。使ったパンチは、手回しオルゴールの譜面を作るものを応用しました。一つ一つの穴に、金環の太陽が映し出されるそうです。受講者にとって、工作ができることは興味を上乗せできます。
また、料理用のお玉をTシャツ上に

投影することでも日食が観測でき、木漏れ日も欠けた太陽の形をして映ります。次回日本で金環日食が見られるのは、二〇三〇年六月一日の北海道になるそうです。
三番目の宇宙の神秘は、来年六月六日水曜日の金星による太陽面通過です。太陽↓金星↓地球の順になります。午前七時十三分から午後一時十七分までの長丁場で観測ができます。その後の太陽面通過は、二一十七年十二月十一日(一〇五年後)となりますので、ご

興味ある方は今回をお見逃しなく。

最後は八月十四日火曜日の金星食です。地球↓月↓金星です。午前二時四十分ごろ明るい金星が細い月に隠れ、午前三時三十分ごろ再び姿を現します。(時刻は場所によって若干違います)。ベルセウス座流星群も一緒に観測できるかもしれません。以上四つの宇宙の神秘が、やって来ますのでお楽しみに。
今回の森の学校では、残念ながら星空の観測はできませんでしたが、大蔵先生の好意により、これまでの高見石からの写真を掲載させていただきました。みなさん、白駒池駐車場よりゆっくり徒歩一時間で、「星空とランプの高

見石小屋」が待っています。今回小生は、食糧を余計に持って九〇キロで、家内は缶ビールを欲張って六〇キロで自宅を出発しました。それでも十分に歩けました。下山するときは、身も心もすっきり軽くなりました。どうぞ八ヶ岳自然と森の学校へお出かけください。
編集後記
ウイスキーを長持ちさせるという珍妙な飲み方を教えてくれた、どくとるマンボウが死んだ。

信州大学東京同窓会の開催について

信州大学東京同窓会が文理学部の諸先輩方により毎年開催されています。ご都合がつかれます方は、是非ご参加下さい。

信州大学経済学部同窓会 会長 矢口晋司

記

- 日時 平成24年2月4日(土) 午後1時受付開始
- 場所 東京都千代田区 アルカディア市ヶ谷 (03-3261-9921)
- 内容 (1) 講演会 大谷 元 氏 (信州大学農学部教授)
(2) 大学からの報告
(3) 総会
- 懇親会 講演会等終了後、会費制 (1万円・平成5年以降の卒業生5千円)。
- その他 講演会および懇親会ご出席の方は、同窓会事務局までメールまたは電話(火、木の10時~16時)でお知らせください。(メールアドレス、TELは一面参照のこと)

シケの大西洋上。「船室でも机上の品物が横たわりを開始する。もうそれも慣れてきて、ウイスキー・グラスがこぼれても慌てて抑えたりはしない。横目で窺っていると、またツーツと手元に戻ってくる。そこを掴まえてグビリとやると、ちよつとした船乗り気分である。」
長持ちさせる飲み方とは、飲みすぎで手持ちのウイスキーが心細くなったとき、マンボウが発明した、次のような方法である。
「まず、箸と氷の小片とコップに三分の一ほど満たしたウイスキーを用意する。箸で氷をつまみ、それをウイスキーにひたし、これを口中に運んでしゃぶるのである。氷の味しなくなりなったら再びウイスキーにつける。この方法においては、氷がウイスキーに溶けるため、いつまでたっても中身が減らないのである。ただ次第に薄くなってまざるのは致し方ないことで、ついにはヤケになってガブリと飲みます。結局は同じことである。」「どくとるマンボウ航海記」一九六〇年。
この秋逝去された、どくとるマンボウこと北杜夫氏は、経済学部の前身でもある旧制松本高等学校で学(遊)ばれた。昆虫と山を求めての入学だったそのころのことは『どくとるマンボウ青春記』(一九六八年)に詳しい。青春記も航海記(船医勤務の記録)も抱腹絶倒、甚だ面白い。会員のなかにも読まれた方が多いに違いない。
もう一〇年ぐらいい前か、あるいはもつと前だったか、上土の飲み屋「しずか」でマンボウに遭遇したことがあった。予想外に背の高い、穏やかな感じのするマンボウだった。当方は未読だが、『夜と霧の隅で』(一九六〇年)で芥川賞。純文学の作品も多い。合掌。

(事務局)